

1 目的

音楽演奏の現場では、演奏者の意図にかかわらずテンポが早くなる（「走る」）現象がしばしば観察される。この現象の特性は指のタッピング課題を率いた実験により検討されてきたが、従来の研究の多くは一定時間間隔のタッピング課題を対称としており、リズムや強弱といった実際の音楽演奏に含まれる時間パタンの要素を考慮していない。本研究では、リズムやアクセントパターンを含んだタッピングの同期継続課題を用いて、これらの要素がテンポ維持特性に与える影響を実験的に検討し、リズムやアクセントパターンがテンポ加速に及ぼす影響について検証する。

2 実験計画

本実験には、従来の研究と同様に同期・継続課題を用いた。従来の研究と異なる点では、テンポだけでなくリズムを含めて目標音と同期してタッピングし、また、それを継続する点である。本実験では、同期区間の時間長を、一定間隔条件でのタッピング1拍分の時間を単位として32拍分、継続区間を320拍分とした。

本研究では、Collyer, et al. の報告 [1] においてテンポ変化が生じにくかった120 bpmを目標テンポに設定して目標リズム音を作成した。

2.1 手続き

核実験での課題になれるために、本試験にのまえに、臓器区間8小節、継続区間8小節の練習課題を課す。被験者がリズムパターンを理解したことを確認した後、被験者がリズムパターンを理解したことを確認した後、同期区間32拍分、継続区間320拍分の本試験を行う。

3 文献

1. Collyer, C., Broadbent, H., & Church, R. (1992). Categorical time production: Evidence for discrete timing in motor control. *Perception & Psychonomic bulletin & Psychophysics*, 51(2), 134-144.